

■授業の目的

教員を目指す学生を対象にした日本史である。高校時代に習った日本史の背景にある史料、学説などを紹介しながら日本史に対する知識、理解、専門性を深め、歴史的なものの見方や面白さも伝えていく。

■授業の到達目標

原始古代から現代にいたる日本史の流れをしっかりと理解することを第一の目標とする。その上で歴史は史料に裏付けられていることを理解し、史料に基づいて歴史像を復元する力の養成を目指す。

■授業計画

- 1 ガイダンス
講義の進め方、内容などのガイダンスと共になぜ歴史を学ぶのか、歴史を学ぶことの意味を考える。
- 2 原始の日本
旧石器時代、縄文時代、弥生時代、それぞれの時代の特質を大きくつかまえる。
- 3 ヤマト政権の発展
古墳時代、飛鳥時代を取り上げ、日本における国家形成の歴史を考える。
- 4 律令国家の成立と展開 1
日本古代国家に大きな影響を与えた律令制。その律令制導入の過程を考える。
- 5 律令国家の成立と展開 2
複雑な動きを示す奈良時代の政治史についてわかりやすく整理する。
- 6 平安期の国家 1
律令制が変質する平安前期の国家と政治、社会の様子について考える。
- 7 平安期の国家 2
中世社会の指標ともなる荘園制と武士の発生について概観する。
- 8 院政の成立と中世国家
院政の成立と構造を考えるとともに、そこから武家政権の祖型である平氏政権が成立していくことをみる。
- 9 内乱の展開と鎌倉幕府の成立
治承・寿永の内乱の過程をたどりながら鎌倉幕府の成立について考える。
- 10 鎌倉幕府の展開
執権政治の成立、展開、変容と蒙古襲来の影響など鎌倉時代の流れを考える。
- 11 南北朝内乱と室町幕府
南北朝の内乱から室町幕府の成立などこの時代の政治、社会の動きを考える。
- 12 室町幕府の展開と東アジア世界
室町幕府の展開と沖縄・北海道を含めた東アジア世界との関係について考える。
- 13 応仁・文明の乱と室町時代の社会
応仁・文明の乱の原因を考えるとともに、惣村などから室町時代の社会の特質を考える。
- 14 戦国大名とその支配の特質
戦国時代の群雄割拠の様相や戦国大名の支配の特質について概観する。
- 15 前期のまとめ
前期の講義の要点をまとめて復習し、古代・中世史に対する理解を深める。試験も実施する。

■授業の方法

授業は講義形式で進めるが、受講者にも主体的な参加を求める。毎回受講者の意見などを聞き、それらをもとにしながら講義を進める。毎回レジュメを配布するが、授業終了時にはリアクションペーパーの記入、提出を求め、双方向の授業を目指す。

■予習・復習

授業に合わせて高校時代に学んだ「日本史」の内容を高校日本史の教科書などで読んでおくこと。それとともに日本史に関する概説書や授業中紹介する参考文献などを読むことをもって予習・復習とする。

■成績評価の方法

試験 80%、リアクションペーパーなど授業への参加度 10%、小テスト 10%。試験後フィードバックとして解説を行う。

■教科書・参考書

(参考書) 高校時代使用した日本史の教科書
佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年

■関連する科目

社会科地歴科教育法、公民科教育法をはじめ幅広く世界史、地理、政治、経済など社会科に関係する科目。